



平成30年 6月12日

各位

会社名 日本テレホン株式会社  
 代表者名 代表取締役社長 岡田 俊哉  
 (東証 JASDAQスタンダード: 9425)  
 問合せ先 執行役員企画財務本部長 寺口 洋一  
 電話番号 03-3346-7811

## 平成30年4月期 通期業績予想数値と実績値の差異に関するお知らせ

当社は、平成29年12月12日付け「平成30年4月期 第2四半期業績予想数値の修正および通期業績予想数値の修正に関するお知らせ」にて公表しました平成30年4月期の通期業績予想数値と実績値に差異が生じたので、お知らせ申し上げます。

### 記

#### 1. 通期(平成29年5月1日～平成30年4月30日)業績予想数値と実績値の差異

|                          | 売上高   | 営業利益 | 経常利益 | 当期純利益 | 1株当たり<br>当期純利益 |
|--------------------------|-------|------|------|-------|----------------|
|                          | 百万円   | 百万円  | 百万円  | 百万円   | 円 銭            |
| 前回発表予想 (A)               | 5,160 | 10   | 3    | △47   | △13.97         |
| 今回実績値 (B)                | 5,236 | △59  | △68  | △103  | △30.38         |
| 増減額 (B-A)                | 76    | △69  | △72  | △55   |                |
| 増減率 (%)                  | 1.5   | -    | -    | -     |                |
| (ご参考) 前期実績<br>(平成29年4月期) | 5,707 | △58  | △62  | △77   | △22.74         |

#### 2. 通期業績予想数値と実績値の差異の理由

通期の業績予想数値と実績値の差異の主な理由につきましては、売上高においては、主力事業である移動体通信関連事業およびリユース事業ともに順調に推移したことによって前回予想を上回ることができました。

しかしながら、各利益におきましては、移動体通信関連事業に関しましては、「情報通信ショップ」の閉店におけるコスト削減効果があったものの、「キャリアショップ」において、事業者が定める各指標におけるクオリティ評価の優劣によって定められた手数料獲得等が前回予想より下回りました。一方のリユース関連事業に関しましては、個人向け販売撤退における値下げ販売の影響やコスト削減効果の寄与に想定以上の時間を要したことにより、前回予想より下回りました。

これらの結果、当会計年度における経営成績は、売上高は 5,236 百万円と前回予想 5,160 百万円に比べ 76 百万円、1.5%上回りました。

営業損益につきましては、引き続き一般管理費の削減を始めとした経営の効率化に努めてまいりましたが、営業損失 59 百万円と前回予想 10 百万円の営業利益に比べ 69 百万円下回りました。

また、経常損益につきましては、物品売却益、受取手数料等の合計 1 百万円の営業外収益があったものの、和解金 3 百万円、為替差損 2 百万円、支払利息 2 百万円等の合計 11 百万円の営業外費用を計上した結果、経常損失 68 百万円と前回予想 3 百万円の経常利益に比べ 72 百万円下回りました。

当期純損益につきましては、第 3 四半期において「当社店舗に所属した元従業員による移動体通信機器の詐取等の不祥事」の発生により 23 百万円の損害が発生するとともに店舗の撤退損等に伴う減損損失 12 百万円、固定資産除却損 6 百万円および、税金費用等 1 百万円を計上した結果、当期純損失 103 百万円と前回予想 47 百万円の当期純損失を 55 百万円下回りました。

以 上